

松山北高等学校図書館だより

いずみ

令和2年度 第4号
発行 9月 7日
図書館委員会
2年3組 図書委員



あっという間に過ぎてしまった楽しい夏休み。そして、北高生が熱く燃える一日となった体育大会。忘れられない青春の一齣になったことでしょう。

まだまだ日中は暑い日が続いていますが、夜には秋の気配を感じ始めました。「読書の秋」がやってきます。是非、図書館に足を運んでみてください。秋の夜長に読みたい一冊がきっと見つかると思いますよ。

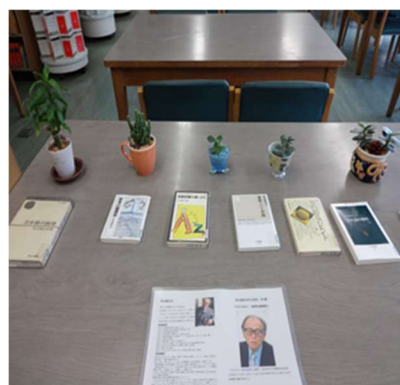


【天童荒太さんの絵本】



天童荒太さんの絵本『どーした どーした』が、国際連合「SDG Book Club」に選ばれました！誰にでも「どーした」と声をかけ、うんざりされている少年の物語。少年のしつこい「どーした」が周囲を巻き込み、深刻な状況にいる子どもを救うことにつながる様子を描いています。精神的、肉体的な健康を維持するために、子どもに向けてイラスト入りで簡潔にマインドフルネスを紹介する絵本です。図書館の特集コーナーに展示しています。

【外山滋比古さん追悼】



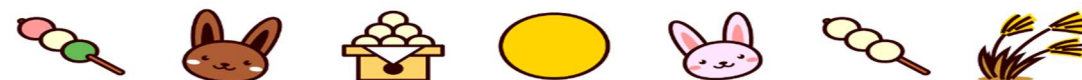
ベストセラー『思考の整理学』の著者である外山滋比古さんが、7月末にご逝去されました。図書館に追悼の特設コーナーを設けて著書を展示しています。観葉植物にもちょっと癒やされる空間です。

大学入試でもたびたび登場している
評論の著者ですよ！

【図書委員お薦めの本】

「四畳半神話体系」 著：森見 登美彦

2017年にアニメ映画化された「夜は短し歩けよ乙女」と同作者の小説で、両方を読んだ人は分かると思いますが、実は、ところどころで繋がっているところがあり、そこが面白い！独特の語りと、魅力的なキャラクターに、一度読んだら骨抜きになっちゃいます。是非読んでみてください。



「12人の死にたい子どもたち」 著：沖方 丁

廃病院に集まった「安楽死」を望む12人の少年少女。しかし、病院のベッドの上には、13人目の少年の死体が！

安楽死を望む、12人の死にたい子どもたち。現代社会が抱えている問題について、真剣に考えさせられる作品だと思います。映画化もされました。図書館にあるので、是非借りてみてください。

【第1回ブックショッピング】



8月6日（木）に図書委員5名と図書の先生で紀伊國屋書店に行ってきました。初参加だった松本君に感想を聞きました。「今回初参加だったけど、図書館でほとんど毎日会っている人たちと一緒にだったので、楽しかったです。他の人が選んでいる本を見て、さらにお互いのことが分かった気がします。お薦めの本をたくさん選んだので、読んでほしいです。」

【おしらせとお願い】

今月17日（木）に行われる文化祭で、図書委員会は昨年も好評だった古本市をします。皆さんの家に眠っている古本、漫画、CD、絵本などがありましたら、是非、図書館に持ってきてください。よろしくお願いいたします！文化祭当日、ご協力いただいて集まった本を販売します。昨年もいろんなジャンルの本が集まりました。今年も早い者勝ちで、お待ちしております。お早めに、お宝本を見つけに来てください。図書館でお待ちしております。

また、紙上ビブリオバトルや、図書クイズの企画を考えています。『North Library Festival』を楽しんでね！

